

## 東海第2原発の再稼働を許さない 共闘を最大限に結集しよう！

### ◆2017年度総会&学習会を行いました

12月3日、水戸生涯学習センター中講座室にて、さよなら原発いばらきネットワーク2017年度総会を開催しました（参加者47名）。

総会に先立ち、学習会【～裁判から考える～東海第2原発の危険性と再稼働を止める方法】として、講師に大石光伸さん（東海第2原発訴訟団共同代表）をお迎えし、お話を伺いました。裁判の中でも論客として訴訟団を引っ張ってくださっている方です。裁判資料を引用し、東海第2原発の危険性についてポイントを押さえ学習をしました。

日本原電が20年延長申請した直後ということもあり、関心が高く会場はほぼ満席になりました。



講演をする大石光伸さん

学習会後に行われた総会では、昨年度の活動のふりかえり、新年度の活動方針の確認、決議の採択をしました。活動の柱は以下のような内容となります。活動へのご参加・ご協力をお願いいたします。

### 【2018年度活動方針】

#### \*東海第二原発は絶対に再稼働させてはならない

東海第二は、震災で被災した非常に危険な原発です。福島型と同じ沸騰水型原発の運転延長は全国初です。30km圏内に98万人の昼間人口を擁する日本一の人口過密地域にある原発であり、橋本前知事も認めたように、避難計画で安全を確保することは不可能です。

震災以後6年以上稼働しなくても電気は十分足りていました。住民のいのちと暮らし、農業の基盤を危険にさらし、処理できない核廃棄物を生み出す原発再稼働は絶対に止めなければなりません。

#### \*東海第二原発の運転期間延長をゆるさない

東海第二原発は11月28日に稼働39年を迎えます。日本原電は11月24日に40年を超えて最長20年の運転期間延長を申請しました。

同日、県内53団体が共同で日本原電茨城事務所に抗議文を提出し、申し入れを行いました（資料）。日本原電本店にも29日に提出・申し入れを行う計画でしたが、本店が受取り自体を拒否したため、同日、本店前で約100名が抗議行動を行いました。

#### \*安全協定見直しにむけて重要な進展

30km圏6市村（東海村、日立市、ひたちなか市、那珂市、常陸太田市、水戸市）の首長でつくる原子力所在地域首長懇談会が要求してきた原子力安全協定見直しについて、日本原電は事前了解の対象を現在の県と東海村のみから他の5市にも広げることがを約束し、新たに6市村と結ぶ協定文の調整をしていると報道されています（私たちが求めてきた内容になるのか、予断を許しません。）

#### \*幅広い共同の成果に確信をもち、運動の発展を

茨城平和擁護県民会議、原発事故から暮らしを守るネットワーク、さよなら原発いばらきネットワーク、脱原発ネットワーク茨城、東海第二原発の廃炉をめざす県民センターの5団体が呼びかけ、「東海第2原発再稼働問題・署名実行委員会」としてとりこんできた「茨城県・東海第二原発の『20年延長申請』に反対する署名」と「茨城県・東海第二原発の『安全協定見直し』を支持する署名」の「2つの署名」は、それぞれ、累計で60,413人分と56,110人分の署名を提出しました。私たちの運動の成果に

確信をもちましょう。

覚書に沿った事前了解権が締結されるよう今後も動きを注視し、関係団体と連帯し、各市町村首長への申し入れ、懇談など進めていきます。

また、東海第2原発再稼働問題署名実行委員会は、署名の最終提出を終え、その目的をほぼ終えたため、あらたに「原発いらない茨城アクション実行委員会」として、東海第2原発の再稼働を許さないアクションを強めています。さよなら原発いばらきネットワークは引き続き、実行委員会事務局団体として活動に関わり、8.26 原発いらない茨城アクション人間の鎖の企画・運営や、前項の日本原電に対する抗議文や申し入れについて各団体の取りまとめや調整を担っています。相互協力をさらに進め、東海第2原発の再稼働をとめる力を強めていきます。

#### \*各自治体、原電、規制委員会への要請を強めます

大井川新茨城県知事は、原発再稼働は県民の声を聞いて判断するとしています。他団体等とも協力して、パブリックコメントの提出や議会請願を含めて、県内各自治体、地方議会、日本原電、規制委員会に対する要請を強めます。

規制委員会の合否判断は、この一年が勝負です。同時に、仮に合格が出たとしても、実際に必要な工事が完了し再稼働が可能になるまでには2021年3月までかかるといわれています。それぞれの期間にふさわしい運動の組み立てをする必要があります。

「2つの署名」が提出を終えたことから、新たな署名運動や大きな集会を望む声が寄せられています。これまで共同してきた多くの団体と協力してとりくめる運動を提案していきます。

直近のとりくみとして、規制委員会へのパブリックコメントを書くための講習会を開催する予定です。詳細が決まりしだい告知します。

#### \*放射能からのちとくらしを守ろう

福島県民健康調査の結果、甲状腺がんまたはその疑いがあると診断された人は194人まで増えています。2巡目にも高い発症率が確認されていることからスクリーニング効果でないことは明らかであり、手術を受けた患者の9割がリンパ節転移、甲状腺外浸潤、遠隔転移などのいずれかに該当している

ことから、過剰診断でないことも明らかです。

子どもの甲状腺エコー検査に対して、北茨城市・高萩市・大子町・城里町・東海村が全額助成を実施しました。県内の自治体が甲状腺検査など放射性物質の影響に関する健康調査を継続的に行うことを求めます。



#### <2019年度行動予定>

▼2018年1月～2018年11月

毎週金曜日 日本原電前抗議アクション

▼2017年12月3日(日)

学習会「～裁判から考える～東海第2原発の危険性と再稼働を止める方法」&総会

▼2018年2～3月

規制委員会へのパブリックコメント学習会

▼2018年3月11日(日)

キャンドルみとナイト2018

▼2018年5月3日

憲法フェスティバルへの参加

▼2018年7月

茨城共同運動連絡会・対県交渉への参加

#### <新役員> ※全員留任

代表 : 丸山 幸司

事務局長 : 村田 深

事務局次長 : 川澄 敏雄

同 : 中山 弘子

同 : 花山 知宏 (会計兼務)

会計監査 : 川澄 敬子



本年度も  
よろしく  
お願いします

## 原発の運転に例外は許されない！

### 【2つの“例外規定”の罪】

原発を規制する法令に“例外規定”がなければ、とくに東海第二原発は廃炉が決定していたはずと言えます。

#### \*「20年運転延長」の例外

その“例外規定”の一つは、2012年の原子炉等規制法改定によって、原発を「運転開始から40年で原則廃炉」とした上で、例外的に、「20年を超えない期間、1回に限り延長を可能とする」ことにしてしまったことです。

これによって、関電高浜1・2号機と美浜3号機の延長が認可され、東海第二も延長申請の提出に至っているとと言えます。

#### \*「燃えやすいケーブルの難燃化」の例外

もう一つは、ケーブルについての“例外規定”。

福島第一原発事故後に改定された「火災防護審査基準」\*1では、「(電気)ケーブルは難燃ケーブルを使用すること」と規定しています。だから、旧いがために燃えやすいケーブルを使用している東海第二は、全部を難燃ケーブルに取り替えることができなければ、再稼働は断念せざるを得ませんでした。

ところが、原電は「設置許可基準規則に照らして十分な保安水準の確保が達成できる技術的根拠があれば、同規則に適合するものと判断する」としている言わば“例外規定”を持ち出し、およそ半数の燃えやすいケーブルに「防火シート」を巻くという代替措置を、規制委員会も了承してしまいました。

-----

\*1 実用発電用原子炉及びその附属施設の火災防護に係る審査基準

#### \*その場しのぎのウソはダメ！

「防火シート内の温度上昇でトレイ中の全ケーブルが使えなくなる」(県の委員会で)と言いながら、「防火シートのほうが耐火性能が高い」(那珂市議会で)。どっちがホント？

今年8月22日に開催された「茨城県東海第二安全性検討ワーキンググループ会合」では、委員からの「防火シートの中の温度が上がって、被覆が溶け、火災は大丈夫だとしても、肝心の信号が伝達できなくなってしまうのでは」との問いに、原電は否定できず、「重要な機器は別ルートのカابلも設けるから問題ない」としました。「防火シートによる代替措置」の弱点を示すものです。

原電は、延長申請後、近隣市町村議会をまわり説明していますが、12月8日の那珂市議会原子力安全対策常任委員会では、「非難燃ケーブルに防火シートを巻いたほうが、難燃ケーブルよりも耐火性能が高い」と説明しました。これは、審査会合で規制委に「では、難燃ケーブルに取り替えて防火シートを巻くといいのでは」と言われて引っ込めた主張です。

原電のその場しのぎ、苦し紛れのウソは許されません。 (事務局次長 川澄 敏雄)

#### \*つくば市長「避難者受け入れ1200人が限度」

●記事紹介 東海第二延長申請「リスク大きすぎる」来年十一月に四十年の運転期限を迎える東海第二原発(東海村)の延長運転に向けた手続きが進んだ。運営する日本原子力発電が二十四日、原子力規制委員会に延長申請を出した。住民団体などからは、老朽原発を動かすことに抗議する声が上がった。また、つくば市長も本紙の取材に応じ、「リスクが大きすぎる」と再稼働を危惧した。(越田普之、山下葉月)

県内で二番目に人口が多いつくば市の五十嵐立青市長が本紙の取材に応じ「再稼働で事故を起こしたら、市民を守れないし、避難してくる人への対応もしきれない。市長としてそういうリスクを取ることはできない」と、再稼働に反対する姿勢を鮮明にした。

五十嵐市長は、本紙が六～七月に再稼働の是非をアンケートした際、「反対」と回答していた。

その上で「いろんなものにリスクは伴うが、原発事故は、町や村を失ってしまう。リスクを比較する中で、あまりにも損失が大きすぎる」と指摘した。

県の避難計画案によると、つくば市は、水戸市の住民の避難先の一つ。つくば市は水戸市と昨夏、避難協定を結んだが、五十嵐市長は「今の段階では、責任持って受け入れることは難しい」とみる。

つくば市危機管理課によると、避難所約八十カ所で約一万二千人が収容可能だが「万単位での避難は想像ができない」。二〇一五年九月の関東・東北水害で、約千二百人を受け入れた経験があるが、食糧の手配や避難所運営の困難さから「これ以上は厳しい」と説明する。(2017年11月25日東京新聞茨城版より)



## ～11月の動き～

11/24（金）日本原電茨城総合事務所抗議申入  
（原発いらない茨城アクション主催）



11/30（木）東海村長面談  
安全協定拡大協議について



### <新刊紹介>

☆原発関連の新刊を  
ご紹介します。

『原発は終わった』  
／ 筒井哲郎【著】



著者の筒井哲郎さんは、東海第二原発運転差止訴訟のプラント部会のなかで、老朽化問題に大きな力を貸してくださっている方です。一読をおすすめします。（川澄敏雄）

（著者紹介）筒井哲郎 [ツツイテツロウ]

1941年石川県金沢市に生まれる。1964年東京大学工学部機械工学科卒業。以来、千代田化工建設株式会社ほかエンジニアリング会社勤務。国内外の石油プラント、化学プラント、製鉄プラントなどの設計・建設に携わった。プラント技術者の会会員、原子力市民委員会原子力規制部会長、NPO APAST理事（本データはこの書籍が刊行された当時に掲載されていたものです）

### ◆お知らせ◆

#### \* 会費納入&カンパのご協力をお願いします

さよなら原発いばらきネットワークは、みなさまからの年会費及びカンパで運営しております。

#### ☆会員のみなさま

年会費の請求書&郵便振替用紙を同封させていただいております。お手数ですが、入金をお願いします。（個人 1000 円/団体 3000 円）カンパのご協力も大歓迎です！

#### ☆お知らせのみの登録をいただいている皆様

郵便振替用紙を同封させていただいております。カンパのご協力をいただけましたら幸いです。

#### \* 神田香織さん&広瀬隆さん講演会

☆1/18（土）13:00～

- ・会場 県南生涯学習センター 多目的ホール
- ・参加費 2,000 円
- ・主催；福島応援プロジェクト茨城

※チラシを同封しております。ご参照ください。

#### \* 東海第2原発学習会

☆1/14（日）午前9時30分開始～12時終了

- ・会場 ワークプラザ勝田 2階大会議室
- ・講師 川澄敏雄氏（東海第二原発訴訟原告・さよなら原発いばらきネットワーク、日立製作所に勤めていた経験をもとに裁判闘争に尽力）
- ・資料代 200 円
- ・主催 さよなら原発ひたちなか市実行委員会

#### \* 金曜抗議行動にご参加ください！

☆毎週金曜日 18:00～19:30

- ・茨城県開発公社ビル西側舗道
- ・内容；原発再稼働反対のスピーチ&コールによる街頭アピール行動。鳴り物や音楽も大歓迎です！
- ・主催；原電いばらき抗議アクション

発行；さよなら原発いばらきネットワーク  
東茨城郡茨城町谷田部895

TEL029-219-1031/FAX029-219-1032

HP；<https://t2hairo.jimdo.com/>

TWITTER；t2hairo

FACEBOOK；さよなら原発いばらき

